

一次の文章は、よしもとばななの小説『海のふた』の一節です。「私」は「はじめちゃん」と浜辺沿いにかき氷屋をはじめました。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一日中太陽の光に温められて、水はすっかりぬるくなっていた。

遠くの方で光が雲を、目がおかしくなりそうなくらいに明るくて鮮やかな色に染めている頃、一日中陽に温められたぬるい海に入っていく。

それはなんともすばらしい気分だった。空気と水の間になんの差もなく、自然に体が水になじむ感じだった。

1

海の中にいると、はじめちゃん海は生き物のように見えて、その姿でそこにいることがとても自然だった。水着のほうが全身の色の変わったところがよく見えるのに、どうしてだか、半そでの腕から黒い色が出ているときや、透けた白い帽子から変わった色のまぶたが見えるときよりも、全然大丈夫に見えた。

2

少し沖の大きな岩のところをのぞくと、いつでも何か生き物がいた。魚は海の住人で、私たちは人の家をのぞく侵入者だった。同じでつぱりのところいつでも同じ魚が住んでいたし、カニだとか、うつぼだとか、イカも泳いでいた。イカは触ろうとすると墨を出して逃げていくので、水の中の私たちの顔が互いに④一瞬見えなくなるのだった。

3

その小さな私たちはとても神秘的に思えた。毎回同じ魚がいて、だんだん慣れてきてあまり逃げなくなる……そんな微妙なことが起きるのは、奇跡みたいに思えた。

4

目と目が合うとき、生き物はちゃんとこちらを見ている。真ん丸い目と、確かに目が合っている。お互いのをのぞき込むとき、そこにふたつの魂がある。向こうとこっちが一瞬ひとつの窓になる。こんなに種類の違うところに住んでいるのに、大きさも全然違うのに、お互い相手の世界では息さえもできないのに、見つめ合えて認め合える。どういうしくみでそんなことが起

きるのか、私には全然わからなかった。

5

だんだん肌が冷えてきて、水の中と外の空気の境目ができてくる。金の光が山の緑を照らし出し、雲がピンクになる。そういう時刻になると、時計を見ることもなくても自然に海から上がろうという気持ちになる。そして重力が②感じられる体をひきずるようにして、でも心は軽く歩いて帰った。そしてうちで熱いシャワーを浴びてゆでたのとうもろこしになった私たちは、クーラーのきいた涼しい部屋でたたみの上で疲れて晩御飯まで寝てしまうことが多かった。

②

いつでも公共のスピーカーから、時刻をしらせる音楽が割れた音色で響いてきた。夜をぬつて、波音に混じって。寝起きの③した意識の中では、それさえも甘い音楽に聴こえてきたものだ。

眼を開けると寝相の悪い私はいつでも枕から落っこちていた。顔にたたみのあとがついていて、痛かった。そして目の前には、はじめちゃんの寝姿がいつでもあった。はじめちゃんはいつも④丸くなって寝ていた。

砂糖のかたまりみたいに白くて小さい寝姿だった。

※全身の色の変わったところ……はじめちゃんは小さい頃のやけどのせいで体がまだらに黒い。

問一 ④④に当てはまる言葉として適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ずっしりと イ くるつと ウ ふわつと

エ しつかりと オ ところりと

問二 線部①「そこにふたつの魂がある。」とありますが、それはどういうことですか。

その説明として適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 神秘的で、奇跡みたいに思えたこと。
イ 目と目が合い、そらさなかつたこと。
ウ お互いに、精神が緊張していること。
エ 肉体は相手の世界では生きられないこと。
オ 見つめ合えて認め合えるということ。

問三 — 線部②「割れた音色」とあるが、それはどのような「音色」か。その説明として適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 眠りをさまたげるようなキンキンした音。
イ 音量が大き過ぎてバリバリした音。
ウ 夜の静けさを壊すようなガンガンした音。
エ 波が割れるようなザブンとした音。
オ 思わず枕から落ちそうなガシャンとした音。

問四 — 線部③「砂糖のかたまりみたいに白くて小さい寝姿だった。」とありますが、そこからどのようなことがわかりますか。次のア～オの中から適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 寝起きなので、公共のスピーカーの音楽まで甘く聴こえて、砂糖のように見えたこと。
イ 海の中で遊び疲れて眠りに落ち、甘い夢を見ているのが、こちらからもよくわかること。
ウ たたみのあとがつかないように、行儀よくからだを丸めて、縮こまって寝ていたこと。
エ 丸くなったので体の黒い部分が見えず、寝相の悪い私と対照的にじつと寝ていたこと。
オ クーラーがきいて涼しく、冷えから丸くなり、かたまりのように小さくなっていたこと。

問五 — 線部「空気と水の間になんの差もなく」が「水の中と外の空気の境目ができてくる」のはなぜですか。三十字内で答えなさい。

問六 次の文は、本文中の 1 ～ 5 のどの場所に入れたらよいですか。適切なものを選び、1～5の番号で答えなさい。

どうして、別の世界にいるのに、ちゃんと生きていて、生活しているのだろうか？

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は人の世話を受けて生きる期間が長く、そのために、自活力を失いがちです。これが人間の弱点になります。過保護なのです。それで依存的になり、自分のことが自分でできない人間が多くなっています。

1 子育てでも、もっと、この自活力・自律力をしつけなくてははいけません。幼稚園などでもい

くらか心がけていますが、不徹底です。もっとしつかりしつけないといけません。

① 幼稚園では、遊んだあとに、遊具などを片づけるように指導していますが、しない子がいても大人が代わって片づけたります。しかし、それは間違いです。とんでもないことです。そういう幼稚園では弱い子に育つでしょう。

3 子どもは、厳しくしつける必要があるのです。きちんと片づけができるようにするのは、当然です。

4 幼いときに、なんでもしてもらくせのついた子は、大きくなっても自分のことをする力が欠けることになります。つまり、まわりが手厚く保護すればするほど自立力、自活力はつきにくいのです。

不幸な境遇で育つ子は、そういう保護がなくて生きていかなくはなりませんから、自然に、なんでも自分でする力を持つことになります。貧しい生い立ちで、立派な人間になった人は少なくありません。反面、

自分のことは自分でする。——むやみに、人に頼ったり、人から助けてもらうのは恥ずかしいことである、ということ、子どものうちに身につけることができれば、立派な人生を切りひらくことができるでしょう。

普通の家庭や学校などは、この自立、独立の精神を鈍らせるきらいがあります。恵まれた環境で育った人ほどこの点に留意する必要があります。さきにも述べたように、二代目、三代目といわれる人が弱くなりがちなのは、自分でしななければならないことを、まわりにしてもらっているからです。裸一貫、たたき上げという人の方が生活力をもっているのは当然でしょう。

ヨーロッパの先進国は、生活弱者を社会が救済することを考えて、社会保障の制度をつくり

ました。戦後の日本もそれに倣^{なま}つて、社会保障が制度化されました。健康保険や生活保護が公的サービスになり、一般の人には年金を支給することになりました。社会としては進歩ですが、それによって恩恵^{おんけい}を受ける国民にとっては、必ずしもいいことばかりではありません。働こうと思えば働けるのに、生活保護を受ける人があらわれたのはその一つです。自助、自活の精神が見失われるようになりました。

『50代から始める知的生活術』 外山滋比古

問一 線部①「幼稚園では、遊んだあとに、遊具などを片づけるように指導しています。が、しない子がいても大人が代わって片づけたります」とありますが、このことを筆者は何と述べていますか。五字以内で抜き出しなさい。

問二 ①に入る文として、最も適当なものを次のア～オの中から選び記号で答えなさい。

ア 企業や組織のために働く従業員は、そこから給与^{きゅうぎょ}を受けるので、生活の保証を受けていますから、気が楽です。

イ 自営の仕事をしている人は、自分のことは自分でするのが当たり前なので、うまくいなくても援助^{えんじょ}を期待できません。

ウ 恵まれた環境で育ったのに、人間としての力が乏^{とほ}しくみじめな人生を送る例は、これまた、おびただしくあります。

エ はじめから年金を頼りにするような人には、自分のことはあくまで自分の力です。という覚悟^{かくご}が足りません。

オ 失敗の危険も小さくありませんが、それでもあえて挑戦^{ちようせん}しようという精神をもつ人は非常にまれといえましょう。

問三 ②に入る言葉として、最も適当なものを次のア～オの中から選び記号で答えなさい。

ア 平均的な イ たくましい ウ おだやかな

エ 弱い オ 成熟した

問四 線部②「必ずしもいいことばかりではありません」とありますが、どういうことですか。六十字以内で説明しなさい。

問五 次の段落は元々本文中の 1 4 のいずれかにあったものです。どこに戻すのが最も適当ですか。1～4の番号で答えなさい。

自分のことを自分の力でする——これは生きていく上で大原則です。それが不十分では弱い人間になってしまうのです。

三 次の 線部①～⑮の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- | | |
|--------------|-------------|
| ① 桜の花が咲く。 | ② 蚕をはじめて見る。 |
| ③ 荷物を届ける。 | ④ 値段を確認する。 |
| ⑤ きれいな色に染まる。 | ⑥ この川は浅い。 |
| ⑦ 窓を開ける。 | ⑧ 努力をする。 |
| ⑨ 難しい問題を解く。 | ⑩ 翌日に帰る。 |
| ⑪ 羊を飼っている。 | ⑫ 両親が家にいる。 |
| ⑬ 卵焼きを作る。 | ⑭ 料理が好きだ。 |
| ⑮ 裏側を見る。 | |

四 次の 線部①～⑮のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- | | |
|----------------|-----------------|
| ① 一つアマった。 | ② ギン色の洋服を着る。 |
| ③ 東北ヘタビをする。 | ④ ロウジンと話す。 |
| ⑤ 音声をロク音する。 | ⑥ リクの上で船を待つ。 |
| ⑦ 火ヨウ日に会う。 | ⑧ つばめがトぶ。 |
| ⑨ ウメの花を見る。 | ⑩ プリントをクバる。 |
| ⑪ 大阪フヘ引つ越す。 | ⑫ 新しいヌノを買う。 |
| ⑬ タニンのふりをする。 | ⑭ ここはインシヨク禁止です。 |
| ⑮ 花タバをプレゼントする。 | |

五 次の ① ⑩ に漢数字を入れて、慣用表現を完成させなさい。

- | | |
|------------|-------|
| ① の足をふむ | ⑩ |
| ② 聞は一見にしかず | |
| ③ つ子の魂 | ④ まで |
| 石の上にも | ⑤ 年 |
| ⑥ 転び | ⑦ 起き |
| 人のうわさも | ⑧ 十五日 |
| 桃栗 | ⑨ 年柿 |
| | ⑩ 年 |